

1 研究のねらい

本校児童は、ある程度の読書習慣は身に付いている。しかし、読書の幅が広いとは言えず、個人差が大きい。また、読んだ本の世界を深く思索し、共感するという読み方に加え、読んだ本を交流し、価値観や感性を共有するという経験があまりない。様々な読書活動を通して、生涯にわたって人とつながり、絶えず自発的に学ぼうとする習慣を身に付けることを研究のねらいとした。

2 研究の概要

- (1) 本を読むことが楽しいと思えるような本との出合わせ方の工夫
- (2) 子どもの思いや価値観をひろげる読書活動の場の設定
- (3) つながる楽しさを実感し、伝える楽しさを味わえる読書交流の場の工夫

3 研究の内容

- (1) 読書意欲を高め、主体的な読書習慣をつけるための読書指導の研究
- (2) 質の高い読書をするための場の設定の研究
- (3) 心地よい読書環境をつくるための研究
- (4) 読書に対する個人差への対応の研究
- (5) 家庭・地域と連携した読書指導の研究

4 研究の実際

- (1) 読書意欲を高め、主体的な読書習慣をつけるための読書指導の研究
 - ア 読書活動に充てる時間の設定（日課表）
 - (ア) 朝の活動 火曜日…一人読み 金曜日…読み聞かせ（東市来図書館司書 毎学期2回程度）
 - (イ) 全校読書タイム：第2土曜日（年6回）
内容：全校読書会・テーマ読書・選書会・読書活動（ビブリオバトル・ブックトークなど）
 - イ 5・6年生による選書会
年一回、選書の意図を十分に理解させた上で、一人一人の読書傾向や読書の力によって、各学年向けの本を選ばせる。選書した本は読書月間中の給食時放送等でその理由を含め紹介した。
- (2) 質の高い読書をするための場の設定の研究
 - ア 校内読書月間【6月・10月】の取組
毎日3冊の貸出、読書郵便、図書委員会によるイベント（読書クイズ・辞書早引き大会・お話し会・ミニブックトーク・読書ウォークラリーなど）、担任外職員・保護者による読み聞かせなどを行った。
 - イ 日置市地域図書館との連携
月1回だった東市来図書館巡回図書の出し出しを月2回に増やすとともに、日吉の移動図書館車の来校もお願いした。子どもたちは毎回楽しみにしている。
 - ウ 夏休みの緑陰読書
夏休みの出校日に、学校のシンボル「上いちょう」の木の下で緑陰読書会を実施している。図書委員会を中心に、ブックトークや大型絵本、紙芝居の読み聞かせなどを行っている。
 - エ 学期ごとの「おすすめの本」の設定
学期ごとに各学年の「おすすめの本」（1・2学期は20冊、3学期は10冊）を選定する。国語の教科書に紹介された本や学年の発達段階に合ったもの、様々なジャンルの本など、子どもの

実態に合わせて、学校司書と相談しながら選定している。

(3) 心地よい読書環境をつくるための研究

ア 図書室整備・蔵書点検・本棚・机の配置

さらに居心地のよい空間にするために、子どもの手が届きにくい本棚の上部を切ったり、森をイメージしグリーンを配置したりし、子どもがワクワクする広々とした空間をつくり出した。

イ 多目的ホール「本だいたす木」

いつでも気軽に読んだり情報交換したりできるように、多目的ホールに季節に応じた本や読み終えた巡回図書の本を置く場を設定した。

ウ 図書関係の掲示コーナー

子どもの目にいつでも触れる正面玄関や階段などに読書関連の掲示コーナーをつくった。

エ 学級文庫

各学級の学級文庫の充実を図り、読書環境を整えた。国語で学習した作者の他の作品や、社会や理科で学習している内容に関連のある本などを地域図書館の協力も得ながら置いている。

(4) 読書に対する個人差への対応の研究

ア 読書記録

自分の読書傾向を知り読書の幅を広げるとともに、友達や担任との読書交流のきっかけにしてほしいとの思いから、それぞれの学年の段階に応じた読書記録を作成した。

イ 読み聞かせの工夫と実践

友達や下級生に読み聞かせることで、音読の力や選書の力を付けるよい機会となっている。

(5) 家庭・地域と連携した読書指導の研究

ア 家族読書カード【月1回】

毎月23日の親子読書の日前後の土日を利用し、家庭で家族と読んだ本の感想を書く活動を行っている。一定期間掲示した後、個人ファイルに綴じておく。6年生は、1年生からのカードが綴じられており、家庭での読書記録として振り返ることができる。保護者のコメントも温かい。

イ 保護者による読み聞かせ

校内読書月間に合わせ、保護者による読み聞かせボランティアを呼びかけた。「子どもが真剣に聞いてくれて嬉しかった」「楽しかった」などという声が聞かれた。

5 研究のまとめ

(1) 成果

ア 読書環境や様々な読書活動を充実させたことで、自発的に図書室へ向かう様子が見られるようになった。

イ 子ども同士で本を教え合ったり、感想を共有し合ったりする姿が見られるようになった。

ウ ブックトークやビブリオバトルなど、読んだ本を友達に紹介する活動を継続することで、自分の考えを自分の言葉で表現する力が身に付いてきた。

(2) 課題

ア おすすめの本や推薦図書の読破で満足している子どもに、自分で選書する力を付ける必要がある。

イ 中学校との連携を図り、小学校で培った読書の力を中学校へつなげることが重要である。

ウ 読書環境を更に充実させるために、学校と家庭、学校と地域の連携を図る必要がある。

6 今後の取組

本研究のまとめで明らかになった課題を解決し、本校の子どもたちが、読書のすばらしさ感じ、学んだことを生活や日々の学習に生かせるよう、更なる研究を深めていきたい。